

◆実践問題32◆

(仲忠は)かく遥かなるほどを求めありくも苦し

うおぼえて、「いかで、この山にさるべき所もがな

近くて養はむと思ひて、山深く入りて見れば、い

みじういかめしき杉の木の四つ、物を合せたるや

うにて立てるが、大きな屋のやうにあるを見て、

この子の思ふやう、「ここにわが親を据ゑ奉りて、

拾ひ出でむ木の实をも、まづ参らばやと思ひて、

寄りて見るに、いかめしき牝熊・牡熊、子を生み連

れて住むうつほなりけり。出で走りて、この子を

食まむとする時に、この子のいはく、「しばし待ち

給へ。まろが命断ち給ふな。まろは孝の子なり。親

はらからもなく、使ふ人もなくて、荒れたる家に

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

ただ一人住みて、まろが参る物にかかり給へる母

を持ち奉れり。里にてはすべき方もなければ、か

かる山の木の实、葛の根を取りて親に参るなり。

高き山、深き谷を下り登り、まかりありきて、朝に

まかり出で、暗うまかり帰るほどだに、うしろ

めたう、かなしく侍れば、かかる山の王住み給ふ

とも知らで、見はべりつるなり。